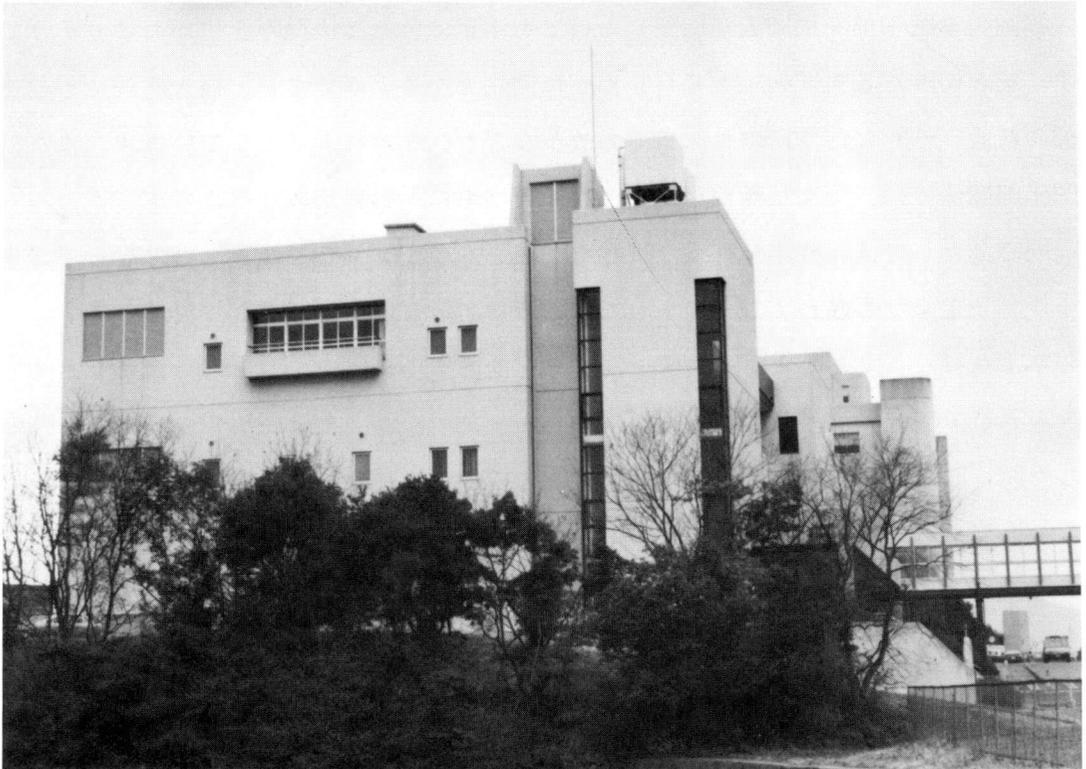

同窓会会報

福岡大学医学部同窓会

第2号



医学部講義棟



年頭あいさつ

福岡大学医学部同窓会会長

山 崎 節

(第1回生)

皆様、明けましておめでとうございます。昭和60年を迎え、わが福岡大学医学部同窓会も設立4年目となりました。

さて、皆様も御存知のように、最近の医学、医療を取り巻く環境は厳しさを増しています。昨年の健保法改正をはじめとする医療費削減政策や、医師過剰の問題など、私達に直接、間接の影響を及ぼしてくる諸問題があります。本年は更に厳しい状況も予想され、皆様にも一層の奮起をお願い致します。

福岡大学医学部・福岡大学病院においても本年は色々な状況の変化が occur そうです。第2病院たる筑紫病院も6月をめどに開院となるようですし、福大病院でも救急部の新設、それに伴う研修システムの改革なども行なわれようとしています。また、医学部関係では、国家試験が年1回となり合格率にも影響がありそうです。

同窓会としては、昨年発刊致しました会報を一層充実させてゆきたいと思っております。予定よりも遅れてしまいましたが、会員名簿も近々発行できる見込みです。一昨年より行なっております。臨床セミナーも前回までの反省をもとに、新たな企画で検討される予定です。その他に事業計画もありますが、図書館が情報センターに移転した跡に同窓会専用の部屋ができる予定ですので、活動の基地として利用できる日も近いと思われま。

昨年夏、宮崎において「宮崎支部」が発足致しました。現在会員のうち、かなりの方が故郷に帰っておられます。他の地域の会員の皆様も各地での活動を活性化させていただきたいと思致します。

昭和60年、わが同窓会にとって一層の飛躍の年としたいと思っております。

【第3回 同窓会総会開催】

第3回総会は、会則に従って昭和59年7月7日（第一土曜日）に、第4回生が主管になり博多ガーデンパレスに於いて開催されました。

式は、下記のように進められました。

1. 開式の辞
2. 会長挨拶
3. 昭和58年度事業報告
4. 昭和58年度会計報告
5. 役員改選

会長選出

新会長挨拶

役員選出

6. 昭和59年度事業計画
7. 閉式の辞

懇親会



昭和58年度 福岡大学医学部同窓会会計報告

《収入の内訳》

○昭和57年度会費 (5,000円×141名)	705,000円
○昭和58年度会費 (5,000円× 11名)	55,000円
○昭和58年度総会 (7,000円×120名)	840,000円
○銀行利息	21,671円

収入合計 1,621,671円

《支出の内訳》

○昭和58年度同窓会総会	549,075円
宴会費	415,250円
景品代	68,000円
アルバイト代	25,000円
通信費	30,000円
その他消耗費	10,825円
○昭和58年度卒業記念品代	269,200円
○為末助教授退職記念品代	10,000円
○写真代	13,015円
○役員会会議費 (4回分)	103,510円
○有信会会費	20,000円

支出合計 964,800円

昭和58年度決算 (収入－支出) 656,871円

昭和59年度への繰越総額 1,681,745円

会計担当 小金丸史隆 印
監 事 田口 純一 印

《役員改選》

会長選出ならびに役員選出

名誉会長	菊地 昌弘	医学部長	評議員	田代 研児	(第4期生)
会長	山崎 節	(第1期生)		前田 純雄	(第5期生)
副会長	高良由貴夫	(第1期生)		緒方 周	(第6期生)
	吉田 隆	(第2期生)		横尾 大輔	(第6期生)
理事	城戸 正喜	(第1期生)		井上 隆則	(第7期生)
	井槌 邦雄	(第2期生)	各科委員	高木 忠博	(第1期生、脳外科)
	小金丸史隆	(第3期生)		増田 登	(第1期生、公衆衛生学)
監事	田口 純一	(第1期生)		林 英之	(第1期生、眼科)
評議員	浅川 昌平	(第1期生)		後藤 英一	(第1期生、麻酔科)
	権藤 英資	(第1期生)		権藤 公和	(第1期生、第2内科)
	穴井 堅能	(第2期生)		江浦 陽一	(第1期生、耳鼻咽喉科)
	浦田 秀則	(第3期生)		中林 正一	(第2期生、第1内科)
	辻 祐治	(第3期生)		古林 修一	(第6期生、皮膚科)

《総会後記》

総会は、会則に従い昭和59年7月7日に開催されました。総会では、昭和58年度の事業報告、会計報告の承認を受けました。またとくに今回は、役員任期満了による改選といった議題があり、現役員再選が承認されました。総会後の懇親会では、遠方よりの会員の参加といった懐かしい顔もみられ楽しい雰囲気にも包まれ、幕を閉じました。昭和60年を迎え、医療界は複雑な問題をかかえてきています。その中で、私たち会員はお互いに交流を深めながら、これからの困難な状況を力を合せて乗切ろうではありませんか。

(文責：高良由貴夫)

《座談会》

テーマ：福岡大学医学部・病院の将来
—— 60年の展望 ——

出席者：菊池昌弘医学部長
朝長正道病院長
山崎節・高良由貴夫・吉田隆
辻祐治・田代研児・前田純雄



高良：医学部も10周年を迎え、昭和も60年代に入ったということで、福大医学部と福大病院が今後どのように進んでいくのかをお話し合い願えたらと思います。

朝長：ご存知のように、新聞に国家試験の定員制などと書かれるように、医師過剰時代が医学部には来ます。病院にとっては、医療財政が窮迫する状態になって、非常に将来は厳しいですね。

菊池：医学部の定員については、おそらく、削られることはないが、補助金がカットされるでしょうね。

朝長：第一、これから医者になりたいという希望者があるかどうかということが問題ですね。こういう厳しい状況の中で、福岡大学医学部と病院が、極端な言い方をすれば、どうサバイバルし、どう発展していくのかは、非常に重大な問題です。

菊池：現状のままでは駄目だということは、おそらく、皆さんが分ってらっしゃると思います。10年間、スタッフが変わっていないというのが、一番の問題点ですね。知らず、知らずのうちに、考えが固まってしまっている。それを動かすためには若いパワーが必要でしょう。

朝長：僕は、いつも進歩ということは変わることである、変化なしには進歩はないといっていますが、これからの原動力となるのは、今の教授や部長ではなく、若い人達ですよ。それと、やはりクリエイティブな仕事をしようとしたら、60歳までですよ。それ以降は、教授ではあるけど、診療部長は若い人にゆずった方がいいのではないかと考えています。それで、そういった教授の先生方が、外来にどしどし出て行って、直接患者を診て、若い人達を指導すべきだと思いますね。

吉田：そうなれば、本当のプライマリケアですね。

朝長：病院について言えば、大学病院だからとか教育の施設だから赤字で良いという時代じゃないですね。大学病院は赤字を出しちゃいけない。そのためにはまず患者さんが増えてもらわねばなりません。

吉田：私達が、福大病院を紹介しようと思う時に、一番問題なのは交通の便が悪いということです。今の患者さんは、同じ事をしてもらうのだったら近い病院を紹介

ということです。今の患者さんは、同じ事をしてもらったら近い病院を紹介してくれといひます。だから、さっきの教授がちゃんと診てくれるというのも良いと思ひますが、福大病院だからといった特徴を出さねばならないと思ひます。

山崎：以前は、福大病院に行けば一生懸命に診察してくれるということだったようですが、最近はそれがちょっとですね。

朝長：病院のアンケートでも、大変よくやってくれているというのものもあるけれど、苦情もあります。外来の始まる時間が遅いとか、医者が顔を見せないとか。

吉田：患者さんが不思議に思われることに、大学病院は行く度に、診察医が違うということがあります。

朝長：まあ、アンケートの内容については、部長会や医局長会で言っていますが、患者さんを増やすために、まず内科を専門外来にしたいと思ひています。それと救急部を早急につくりたいのです。

高良：そうですね。福大病院は内科というだけで、何の専門であるかといったことが分らないとよく言われます。

朝長：そして、福大病院としての特色を出すために、少々高額でも他にない機械や設備を導入したいと考えています。具体的には、NMRや衝撃波による上部尿路結石破碎機（いわゆるショックウェーブ）ですが、これらはそれ自体、多少赤字になっても、PR効果も大きいですし、是非入れたいと思ひています。

吉田：ところで、われわれOBとしては、卒後教育が一番気になっているのですが。

朝長：僕も、筑紫病院の件を含めて、卒後教育についての問題が一番重大だと考えています。

高良：僕らが卒業した頃の頃は、研修医の数もさほど多くなく、比較的患者さんにふれ合う機会も多かったし、かなり色々なことを経験しているのですが、最近では、研修医の数も増えて、臨床的なトレーニングが不足しているように客観的に感じるのですが。

朝長：それと、病院のアンケートでも出てきているんだけど、医者の数が増えてきたものだから、若い医者に全部まかせてしまってスタッフによる臨床管理面がかなり、なおざりになっているようですね。

吉田：福大病院は、地域に密着した医療を展開していかねばと思うのですが、何といつても関連病院が少ないですね。

朝長：もちろん、研修の場としてもですが、筑紫病院は福大病院では急には行なえない改革を導入するという意味でどうしても欲しかったんですよ。筑紫病院では、若いスタッフを中心に完全にシステム化した研修医のローテートを行なうことが必要です。そして、そのような改革を福大病院にフィードバックすることが大事です。福大病院に計画している救急部には、毎晩20～30人のレジデントを拘束出来るスペースを予定しています。何科に進もうと考えている者でも、ここでトレーニングを受けねばならないようにしたいのです。

高良：そうすると、福大医学部と病院のこれからの展開としては、若い力を中心として、筑紫病院から改革の輪を拡げていくということ、それと他の施設にない特色をハード、ソフトの両面に打ち出していくということですね。

それでは、その改革の中心となるべきOBの自覚を促して、この座談会を終わりたいと思います。(文責：辻 祐治)

《支部だより》

—— 宮崎県支部設立 ——

福岡医学部開学十周年を記念に医学部同窓会が設立し、はや二年が過ぎ、我々宮崎県人会も会長挨拶にありました様に、また県内で活躍中の諸学兄より強い要望もあり、この度医学部同窓会宮崎県支部の設立の運びとなりました。



思えば、開学の年昭和47年12月、我々医学部宮崎県人会は、第1回生だけの数人の集りで発足し、他県人会に先がけて、すでに12年の歴史を重ね、現在も福岡にて、医学部生及び卒業生が合同で、年2回、会合をしており、すでにその人数も60名を越えております。

我々は、その第1回生卒業後6年目にして初めて、三好萬佐行先生をお迎えし、地元宮崎で現在活躍中の12名のうち8名が、昭和59年8月12日(日)、宮崎観光ホテルに集り、第1回宮崎県支部会を開き久しぶりに親睦を深めました。

現在地元で活躍中の12名のうち、開業5名、宮医大勤務中7名であり、内科6名、皮膚科2名、眼科・精神科・小児科・耳鼻科各1名であります。出席者8名は、第1回生：野崎 藤子・英 保彦、第2回生：押川 達己・白石 正浩・照屋 信博・北村 亨、第3回生：田尻 明彦、第4回生：野田 寛の各学兄でした。卒業後初めてまた、久しぶりに再会した者同士は、つもる話に飲食も忘れ、時間のたつのも忘れ、話がいつまでも続いていました。最後にこれからも宮崎県の医療の中心となって、活躍していくことを誓い閉会しました。

今後、卒業生が地元宮崎に戻り、各々の立場での活躍が期待されていますが、宮崎に帰って来た時には、野田 寛・北村 亨両氏が窓口となり世話役をしておりますので、御連絡下さい。また、出張で宮崎に来られる諸先生方、休暇で帰って来られる医学部生及び卒業生も御連絡下さい。我々、宮崎県支部会は、各関係者に連絡を取りたいと思います。(文責：野田 寛)

【医局紹介】

その(1) 心臓血管外科

開講は昭和50年で、まもなく10周年を迎えようとしています。現在総勢17名で浅尾学教授以下、木村道生助教授、渋谷講師、滝沢先生、宮脇先生、鬼村先生松吉先生とつづき、以下に福岡大学出身者がいます。本学出身者は17名中10名で助手1名、医員5名、研修医2名、大学院生2名です。

現在、開心術が週に2例、血管外科など非開心術が週に1～2例あっており、手術や術後管理と忙しい毎日を送っています。心臓外科は体力が一番などと言われますが、医局員の人数も増え、以前と比較して、かなり楽になってきています。しかし、切迫心筋梗塞や解離性大動脈瘤などの急患の手術も時々あり、夜中から朝方になることも少なくありません。しかし、皆な心臓外科が好きで入局した人ばかりのようで、文句はよくいいますがまだ医局をやめた人はいません。

人物紹介をしますと、

浅尾学教授：温和な性格の先生で、冗談もポンポン飛び出します。しかし、こと仕事や学問の事となると厳しい一面も持っておられ、医局員、学生から尊敬されているいいオヤジ殿です。

木村道生助教授：2年前、国立東福岡病院から来られました。バリバリ仕事をされ、仕事以外の時は、ひょうきんな、気の若い先生で学生にも人気があるようで

す。

渋谷講師：体も声も大きく、若い医局員の相談相手となっております。

滝沢先生：医者というより芸術家タイプの先生で、英語やフランス語などに精通され、また文学的才能もお持ちの先生です。

宮脇先生：関西弁が抜けきらない、一見クールな感じの先生です。医局長をされています。

鬼村先生：学生に人気No.1の一見カッコイイ先生です。若い医局員のまとめやかくです。

松吉先生：どこからみても、重役タイプの先生で、知らない患者さんから教授と思われることが多いようです。

穴井先生：54年入局。書いている本人です。論評を避けます。空手愛好会。

河野先生：54年入局。大学院生です。ひたすら真面目ですが、酒が入ると、声が大きくなります。剣道愛好会。

今田先生：55年入局。医員です。背が高く、ハンサムで、以前はもてていましたが、今はマイホームパパです。剣道愛好会。

助広先生：55年入局。大学院生で、これも背が高く、痩せています。雑学の大家と呼ばれ、いろいろな事にうん蓄を傾けています。テニス愛好会。

中村先生：57年入局、医員です。真面目な好青年です。独身。

有門先生：57年入局、医員です。今だにこの人物を誰もつかめていません。一言でいえば変人です。

竹野先生：57年入局、医員です。UCGやPCGを専門にやっています。サッカー愛好会。

稲員先生：56年入局、医員です。こちらでもUCG、PCGをやっています。ゴルフ愛好会。

森重先生：58年入局。これも変わりものの先生ですが、真面目な好青年です。映画愛好会。

平田先生：59年入局。59年12月に、内科から転入してきました。サッカー愛好会。

木藤さん：医局の秘書さんです。福大薬学部出身の心臓外科医局の花です。

以上で全員です。皆、仕事に生き甲斐を感じながら頑張っています。

(文責：穴井堅能)



その(2) 第1内科

わが第1内科は、昭和48年4月に奥村恂教授以下数名のスタッフが香椎病院に着任され開講以来、今年で13年目に入ります。現在医局員総数は100名を越え、本学出身者がその6割以上を占めています。奥村恂教授、西丸雄也助教授、八尾恒良助教授、浅野喬助教授以下講師10名、助手8名、医員28名(本学出身者22名)、大学院生9名(同7名)、研修医34名(同34名)、研究生17名(同7名)、登録医2名(同1名)といった内訳です。

第1内科の指向するところは、あくまですぐれた一般内科臨床の基盤です。その上で各Subspecialityとして分担している分野は、御存知のように消化器、神経、内分泌、血液などですが、医員以上が所属する研究室もこれに準じて構成さ

れています。すなわち、消化管・肝(胆、膵)・神経・内分泌・血液の各グループに分かれて研究・診療・教育にあたっています。

肝グループは奥村教授の指導のもと各種肝疾患及び胆道系疾患を主体として活動しています。免疫学的手法を用いた研究のほか、超音波断層装置を使用した検査・治療が盛んに行なわれています。また肝癌に対して放射線科の協力でTAE(塞栓術)も数多く行なっています。

1 回生＝中山・市原

2 回生＝中林・松岡(正)・東

3 回生＝俞

4 回生＝池田、小山、土居、渡辺(洋)
蒲池・黒川

5 回生＝菅田

消化管グループは、八尾助教授以下30

名の大世帯で透視・内視鏡を中心とした診断学および、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病など）の治療、研究が特徴です。なかでもクローン病は日本一の症例数があります。

1 回生＝加来・緒方・古賀(東)・瀬知・山崎

2 回生＝成富・前田(信)

3 回生＝中原・竹中・前田(和)

4 回生＝今村・筒井・松岡(義)

5 回生＝ト部・久保・瀬尾・梶原（旧姓宮原）

神経グループは、西丸助教授のもと脳血管障害をはじめ種々の神経筋疾患を対象に活躍しています。重症筋無力症の症例が多いのも特徴です。

5 回生＝原(文)・広岡

内分泌グループは、浅野助教授以下のスタッフで糖尿病および各種内分泌疾患の診断・治療に実績があります。なかでも糖尿病に対する研究が盛んです。

2 回生＝二宮

3 回生＝片伯部，原(信)

血液グループは、昭和56年北島講師の後任として久野講師が着任され、全スタッフ5名と最小人数で各種血液疾患の診断・治療・研究にあたっています。入院患者には白血病・悪性リンパ腫といった造血器腫瘍も多く、精力的な治療が行な

われています。

3 回生＝瓦

研修医は1年間第1内科で内科臨床医としての幅広い素養を身につけることをモットーとして、先の各疾患を体験したのち、第2内科へローテーションしますが、一部の者はある期間は院外研修をすることもあります。研修医終了後は前記の各グループに所属しますが、一般内科医として必要な消化管透視、内視鏡、超音波検査などのトレーニングを受けることもできます。

現在主な出張病院は、福岡赤十字病院、浜の町病院、福岡市医師会成人病センター、九州中央病院、白十字病院、佐田病院などがあり、10数名出張中です。

医局の主な行事としては、新入医局員歓迎会を兼ねた一泊二日の医局旅行、夏休み前の Beer Party, 特に昨年で2回目の納涼船は好評のようです。11月末の医局長選挙、そして忘年会といったスケジュールです。

医局ではスポーツも盛んで、奥村杯ゴルフコンペをはじめとして、テニスは雲仙合宿を行なって九大第2内科・久大第2内科との定期戦が行なわれています。野球やソフトボールに加えサッカーも盛んです。

(文責：山崎 節)

【第78回 医師国家試験】

去る、昭和59年9月23・24日の両日に第78回医師国家試験が実施された。本学は40名が受験し、14名が合格した。合格率35.0%であった。

《合格者名簿》

氏名	入局先	氏名	入局先
井上隆則	精神神経科	安田恵	眼科
魚住浩	健康管理科	山下雄二郎	泌尿器科
緒方利帆子	熊大麻酔科	小野広幸	放射線科
熊之細透	鹿大麻酔科	蒲池紳一郎	耳鼻咽喉科
生野英祐	整形外科	近藤孝	整形外科
高橋亨	麻酔科	潤田裕二	第一外科
濱崎寛	香大整形外科	天野修造	第二内科

《昭和60年度の事業予定》

① 第4回同窓会総会

会則に従い、7月6日の第1土曜日に総会を開催する予定です。今回は、5回生の主管になります。会場など決定次第、会員の皆様にはご通知いたしますので、今年もふるってご参加下さい。

② 第3回臨床ゼミナール教室開催予定

③ 会員名簿作成

現在、名簿の改訂を行っています。順調に進んでいますが、住所、勤務先の変更が同窓会事務局に連絡されないままの会員の方がいらっしゃいます。早急にお知らせ下さい。なお、会員の動向をご存知の方は事務局にご連絡下さい。

〒814-01 福岡市城南区七隈7丁目45番1号

福岡大学医学部同窓会

名簿係 井上 隆則 宛て

【お知らせ】

〈会費納入のお願い〉

昭和59年度 会費5,000円を未納の会員の方は、早急に下記の口座にお振込下さい。
昭和60年度の会費については、今年6月末日までにお振込下さい。

福岡銀行 福岡大学病院出張所
普通貯金口座 No. 18937
福岡大学医学部同窓会
山崎 節

〈変更通知は忘れなく〉

転勤、留学、結婚等で住所、氏名や勤務先を変更される会員の方が多いと思います。ぜひ、同窓会宛てにご一報下さい。会員への通知、名簿作成などに際し消息を追うことは極めて困難なのです。なお、通知用のハガキを綴込んでいます。ご利用下さい。

〈編集後記〉

新春早々に第2号を皆様にお届けする予定でしたが、若干遅れてしまいました。本号は、母校の変化、臨床活動状況について皆様にご理解いただけるように、医学部長、病院長にお話をお聞きしました。また、宮崎支部の設立といった嬉しい報告を掲載することが出来ました。次号は、第2病院の件について少し詳しく触れることが出来ると思います。さらには、会員諸氏からの近況報告等を綴ってみたいと思っています。会報の内容は真面目に、そして面白く、充実させたいものだと編集委員一同考えています。ぜひ、皆様からのご投稿、ご協力お願いいたします。

投稿について …… 原稿用紙3～4枚程度

内容 自由

写真を同封のこと

投稿先 〒814-01 福岡市城南区七隈7丁目45番1号

福岡大学医学部同窓会

編集委員 高良 由貴夫 宛て

編集委員

辻 祐治、小金丸隆史、高良由貴夫、緒方 周